

普及活動情勢報告（平成30年6月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

ニラの株養成期の栽培管理について



現地検討会の様子

6月15日、須崎市、中土佐町のハウスでJA土佐くろしおニラ部会による現地講習会が行われました。当日は須崎市では10名、中土佐町では4名の生産者が参加しました。

5月中旬～6月上旬に定植されたニラは、株に養分を蓄える株養成期に入っています。

農業改良普及課からは、これから夏期にかけての灌水や追肥など栽培管理方法や冬期に実施した電照試験の結果、JAからは農薬の安全使用や出荷量・価格の推移などについて説明しました。

次回は8月に決算総会が予定されています。農業改良普及課は、今後もニラの安定生産に向けて巡回などを通じて支援していきます。

農産物事故ゼロを目指して ～JA土佐くろしお集出荷場GAPの実施～



ミョウガ作業場の確認中

5月28日、JA土佐くろしおと農業改良普及課はJA土佐くろしお大間、葉山、久礼の各集出荷場で、集出荷場版GAP点検を共同で行いました。

集出荷場のGAP点検活動では、日々の点検シート・清掃の記録や、作業場や休憩室などの状態を確認しました。点検を行う中で、集出荷場としてみんなでGAPに取り組んでいくという積極的な姿勢が伺えました。

農業改良普及課は、今後も定期的に関係機関とともに集出荷場のGAP点検活動を行い農産物事故ゼロを目指し、支援して行きます。

土佐甘とう（甘長とうがらし）の収穫が始まりました



説明を聞く生産者

5月28日、津野町、檮原町の雨よけハウスでJA津野山土佐甘とう部会による現地講習会が行われました。4月上旬に定植された土佐甘とうは5月上旬から徐々に収穫が始まっており、H30年度の現地講習会は今回が第1回となります。

当日は津野町では7名、檮原町では12名の生産者が参加しました。農業改良普及課は栽培管理方法や病害虫について、JAからは出荷時の荷姿など、園芸連からは販売情勢について説明しました。

6月には目ならし会が予定されています。農業改良普及課は、今後も甘とうの安定生産に向けて巡回等を通じて栽培支援していきます。

普及推進協議会の開催



推進協議会の様子

5月31日、須崎管内各市町村、各JA、生産者代表の方等にお集まりいただき、普及推進協議会を開催しました。

会では、農業改良普及課から本年度の普及活動計画の内容や複合経営拠点、農業クラスターについての説明や、移住専門家をお招きした意見交換により、地域や農業の課題の共有と移住者を受け入れる体制作りとして検討すべき課題等への意見をいただきました。

農業改良普及課では参加者から出された意見を今後の普及活動に更に反映させ、地域や農業の課題解決に取り組みます。

自分で考える人づくりからの作業改善 ～農業現場での『カイゼン』の取り組み～



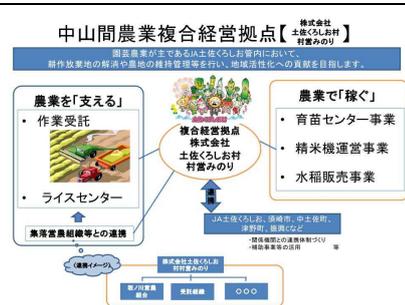
花き栽培の状況確認

6月12日、管内の花き栽培経営体のハウス、作業場で『カイゼン』コンサルタントによる現地調査が行われました。今年度から普及指導員とともに県内の6モデル経営体で始まった経営改善の取り組みです。『カイゼン』のプロの視点から提案を受け、自ら考える作業改善に取り組んでいきます。

当日はモデル経営体、コンサルタント、環境農業推進課、農業改良普及課13名が参加しました。農業改良普及課から経営概要と作業工程について説明、現地調査の後、意見交換では、経営体からの課題の聞き取りやコンサルからの提案を受けました。

農業改良普及課は、今後もモデル経営体の『カイゼン』に向けて提案を通じてカイゼン支援をしていきます。

J A出資型法人「村営みのり」が中山間農業複合経営拠点に位置づけ～今後の活動について協議～



園芸が主体の地域における耕作放棄地の解消や農地の維持管理を実施し、地域に貢献！

県では中山間地域の農業を支え、競争力を高める仕組みとして、「支える取組」と「稼ぐ取組」を複合的に経営する中山間農業複合経営拠点の取組を推進しています。

5月30日、拠点候補として話し合いを重ねてきたJA土佐くろしお出資型法人「株式会社土佐くろしお村 村営みのり」について、関係者で協議を行った結果、県内17番目の拠点として位置づけされることとなりました。

今後、農業改良普及課は、行政、JA、みのり等関係機関で支援チームを構築し、アグリ事業戦略サポートセンターの協力を得て、「村営みのり」の事業戦略の策定に向けて連携した活動をしていきます。

おおのみエコロジーファーマーズが高知県立大学の「COME☆RISH」と田植え



田植え体験の様子

おおのみエコロジーファーマーズでは、6月3日に高知県立大学の学生組織「COME☆RISH」と田植えを行いました。これは大野見米について学生に理解を深めてもらおうと毎年、田植えから収穫・販売までを体験してもらっているものです。

農業改良普及課からは、稲作及び稲についての説明を行いました。学生からは「田植え機に初めて乗ることができて楽しかった」、「稲・お米の勉強ができてよかった」などといった声があり、エコロジーファーマーズからは、「大野見ではCOME☆RISHの名前が認知されている。たくさん大野見にきて活動してほしい。」との声がありました。

農業改良普及課では、生産者と将来の日本を担う学生との交流活動を引き続き支援していきます。